

29. 学校保健と連携した思春期精神保健対策の推進に関する研究

- 全 有耳 (京都府中丹西保健所保健室 医務主幹)
- 川村愛子 (京都府中丹西保健所保健室 技師)
- 奥井 明 (京都府中丹西保健所保健室 室長)
- 西山希和 (京都府中丹西保健所福祉室 副主査)
- 岡場芳紀 (京都府中丹西保健所福祉室 室長、現：京都府北部家庭支援センター)
- 井上 肇 (京都府中丹西保健所 次長、現：京都府産業廃棄物協会)
- 廣畑 弘 (京都府中丹西保健所 所長)

【研究目的】

子どもの心の問題の増加とそれに対する対策の必要性が指摘されている。平成 21～22 年度に実施した我々の先行研究より、学齢期児童へのメンタルヘルス対策の必要性が明らかとなった。今回、学校現場で実施可能な心の問題への早期介入プログラムの確立（問診票の整備、関係機関の課題の共有と役割分担、医療とのネットワークづくり）に向けた検討を、教育委員会及び学校保健と連携しすすめることを本研究の目的とする。

【研究の必要性】

当保健所は平成 17 年度より管内の福知山市と協働で発達障害児早期発見・早期支援体制整備のための 5 歳児モデル健診事業に取り組んだ。その成果をうけて福知山市では平成 20 年より保健・福祉・教育・医療が連携した、乳幼児期から学童期にかけての発達障害児支援システム（名称：のびのび福知っ子就学前発達支援事業）の構築に至っている。

一方、福知山市教育委員会は、平成 21 年度に文部科学省特別支援教育総合推進事業における京都府のグランドモデル地域指定をうけ、特別支援福知山市連携協議会を設置し、発達障害を含む障害のある子どもの乳幼児期から成人期に至るまでの一貫した支援体制の構築に向けた取り組みを推進している。当保健所は、特別支援福知山市連携協議会における 3 つの部会のうち、「生活満足度部会」における事務局を担い、平成 21 年度より 3 ヶ年にわたり試行的に小学校 5 年生児童生徒を対象に生活満足度事業を実施した。その目的は、「①思春期を中心に顕在化する発達障害や子どもの困り感を早期に発見し、保護者と学校が共通認識をもつきっかけづくりを行い適切な支援へとつなげることにより、不登校やひきこもり等の二次障害を予防し、将来的な成人期の心の健康の基礎を築くこと、②調査を通じて教師の力量アップを図るとともに、特別支援教育コーディネーターや生徒指導担当、人権教育担当、養護教諭などが有機的に連携する校内支援体制が整備されること。」にある。

生活満足度事業の内容は、①心と体の健康調査(児童と保護者が回答)、②カンファレンス

による支援方策の検討、③事後支援から成るが、平成 22 年度の結果では、対象児童 208 人中、発達障害等の要因に対し専門的な支援が必要とされた児が 16 人(7.7%)、その他友達関係、不安が強いなど日々教師が気をつけて対応する必要のある児童が 54 人(26.0%)あった。一方、支援が必要である児童ほど「体がだるいし元気がでない」「理由もなくイライラすることがある」「悲しいつらいと感じる」「好きなことでも楽しめない」の質問に「そうである」と回答する割合が有意に高い傾向が認められた。

今回の生活満足度事業の結果より、学校現場において、発達障害児の二次障害の予防の視点のみでなく、ひろく思春期を前にした児童のメンタルヘルス対策の必要性が明らかとなったことから、学校保健と連携し具体的な手法開発に向けた研究を実施することとなった。

【研究計画】

(1) 心と体の健康調査票の整備

調査実施により児童の行動、情緒面、対人関係等の特性や心身面の不調等、児童のもつ困り感に早期に気づきをもてることを目的とした、学校現場で実施可能な心の健康スクリーニング質問紙(児童用、保護者用)を整備する

(2) 調査後の事後支援として社会性の発達支援を目的とした小集団活動の実施と意義の検証

調査結果より、対人関係、社会性の課題に対する支援が必要とされた児に対して小集団活動を実施し、その意義について検証する。また今後地域資源として実施可能な方策について検討する。

(3) 学校保健と地域保健の連携による、子どもの心の問題に対する予防的な取り組みの推進

① 思春期精神保健に関して、学校保健、地域保健、地域の医療・福祉等関係機関が課題を共有し、具体的な体制整備に向けた検討の機会を計画する。

② 小学校、中学校及び高等学校の養護教諭及び地域保健の保健師のネットワークづくりを進めることで、児童期の心身の問題に対する具体的な方策を検討できる機会とする。

(4) 研修会の実施

担任、養護教諭、校医ら学校関係者との研修の機会もつことで、思春期児童へのメンタルヘルス対策の必要性の意識共有、関係機関の役割の明確化、連携の必要性等それぞれの立場で認識を深められる機会とする。

【実施内容・結果】

(1) 心と体の健康調査票の整備について

生活満足度事業で試行的に用いた調査票(子どもの強さと困難さアンケート) :

Strengths and Difficulties Questionnaire 25問と生活と健康に関するアンケート10問)について、これまでのデータからカットオフ値を設定し、学校で効率的に実施いただけるようマークシート方式の調査票と分析ファイルを整備した。

これを用いて、平成24年度は9小学校473人(全対象学年児童数の58%)に調査が実施され、学校現場で有効に活用できるツールとなっている。

(2) 社会性の発達支援を目的とした小集団活動の実施と意義の検証

平成22年度より、生活満足度事業の事後支援として、京都教育大学の協力を得て、市教育委員会と保健所が協力し、ボランティア(地域の大学生、高校生)の参加も得ながら小集団活動を実施してきた。その目的は小集団の中で、遊びを通して自分らしさを発揮しながら、人と関わることの楽しさを体感させ、コミュニケーション能力の育成を図ることにある。

子ども達は毎回参加を心待ちにしており、楽しい経験の中で対人スキルを獲得し自信を深めていく様子が観察された。一方、子どもの活動と並行して別室で実施した保護者交流では、保護者にとって日々の不安の解消、前向きに子どもの特性に向き合う気持ちの変化等が観察され、このような活動の機会が対人関係に苦手さをもつ子どもとその保護者にとって、大変有意義であると考えられた。

平成24年度はこれまでの取り組みが地域力を活用した運営となっていくことを見据え、地域の福祉機関(社会福祉法人)も参加いただきながら、今後の実施のあり方について検討を行った。社会性の発達に課題をもつ子どもにとって、自分の苦手さに気づく時期に、楽しい遊びの中で成功体験を重ねながら対人関係のスキルを身につけられること、また居場所になる空間があることが思春期を乗り越えていくための原動力となるものであることが関係者の中で共通認識され、今後はこれまでの取り組みを基盤に、地域で実施できる体制づくりに向けてさらに検討していく予定となっている。

(3) 学校保健と地域保健の連携による、子どもの心の問題に対する予防的な取り組みの推進

①発達障害児等思春期支援方策検討会の実施

上述の目的のもと、平成24年度8月30日に開催した。

参加機関
教育：市教育委員会(特別支援担当、学校保健担当)、中丹教育局、支援学校 養護教諭代表(小学校、中学校、高等学校)、学校保健会理事
福祉：児童相談所、発達障害者中丹圏域支援センター、市子育て支援課
保健：保健所、市保健センター
医療：地域の精神科病院副院長(アドバイザー) 医師会学校保健担当理事(アドバイザー)

—結果（参加者の意見等より）—

- ・医療機関からはアドバイザーとして 2 名の医師に参加いただき、医療の現状や思春期保健に必要な視点（子どもの発信を保護者と学校が受け止めることが大切、診断にこだわらず得意な力と不得意な力を知って支援をしていく視点が必要）等話していただき、普段学校関係者からはしきいが高いと感じられていた医療と教育現場の連携の機会となった。
- ・心や行動面の問題をもつ生徒の数は少なくない（約 3 割）。最近は問題が複雑化しどの視点でとらえるかが難しいケースも多く、関係機関の連携による支援が必要である。
- ・養護教諭は学校の現状に応じて丁寧に対応されているが、保護者の理解を得ることの難しさや日々の対応に悩むケースへの接し方など養護教諭として感じておられる課題がある。
→養護教諭の生徒への対応の現状や課題、児童の心の問題に対する健康調査等への意識について、市内に勤務する全養護教諭にアンケートを実施し、必要な方策について検討することとなる。
- ・発達障害等の特性をもつ児童にとっては、早期からの特性への理解と支援が重要であることが再認識されたが、5 歳児健診や生活満足度事業等が有効に活用されることでの早期支援の充実への期待が大きい。
- ・今回のような機会をもつことの意義が関係者で共有されたため、年度末にも再度開催する予定となった。

② 保健師と養護教諭のネットワークづくり

生活満足度事業の中でも実施してきた経緯があったが、24 年度は「心の問題」をテーマにアンケートの実施と結果の分析や、具体的な対策について検討を進めている。これまで地域保健と学校保健の連携及び小学校、中学校、高校まで含めた養護教諭同士の連携の機会がなかったが、今後もネットワークを深めながら、子どもの心身の健康に関する問題について課題の共有、対策の検討を継続していく予定である。

（４）研修会の実施

思春期精神保健に関して学校保健、地域保健、関係機関が課題を共有することで、それぞれの立場で今後の地域づくり及び個別的な支援をすすめていくための契機とすることを目的に、講師は思春期保健、発達障害児支援に関して著名な平岩幹男先生（Rabbit Developmental Research 代表）に依頼し開催した。

開催日：平成 24 年 5 月 13 日（日）

講演内容：第 I 部（10:30～12:30）

「子どもの心の育ちを支える環境づくり

～思春期の子どもたちのメンタルヘルスの現状から～

第Ⅱ部（13:20～16:00）

「発達障害のある子どもへの理解

～心の育ちを支えるサポートについて～」

対象：教諭、保育士、保健師、福祉施設職員、医療関係者等

（第Ⅰ部は一般公開とした）

参加人数：第Ⅰ部 84人、第Ⅱ部 115人

【考察と今後の課題】

保健所は親子保健の枠組みで就学前の親子への支援を実施しているところであるが、生活満足度事業を通じて学齢期の子どもと保護者が抱える問題に直面する中で、ライフステージという広い視点で子どもの心の健やかな成長や育児支援について検討する必要性が明らかとなったことが、今回の研究の動機となった。

核家族化、個人の価値観の変化、児童虐待の増加等、社会環境、生活環境の変化に伴い様々な心の問題をかかえる児童が増加している現代においては、学校現場のみでなく様々な関係機関がそれぞれの専門性をもってこの問題に関わっていく必要があると考えられる。今回の取り組みにより、保健、福祉、教育、医療関係者が課題を共有し、必要な方策について検討がすすめられる契機となったが、具体的なシステム整備に向けては今後さらなる検討と実践の継続が望まれる。

今後も地域保健を担う保健所として、学校保健と連携を密に保健師と養護教諭の連携を深め、地域の医療、福祉機関とのネットワークの構築や、保護者を含む地域住民への理解啓発等を通じて、児童のメンタルヘルス対策を推進する必要があると考えられた。

【経費使用明細】

雇用費（心と体の調査票整備のためのデータ入力、分析、解析 ファイルの作成）	39,600円
5／13研修会 講師謝礼	100,000円
花束代	5,000円
駐車場借用費	1,000円
8／30検討会 アドバイザー医師謝礼（2名）	40,000円
報告書作成費（印刷、製本） 250部	99,750円
冊子郵送料 （「思春期のこころの病」NHK厚生文化事業団作成）100部	1,110円
参考書籍購入費	12,420円
諸費（振込手数料、郵送料）	1,154円
計	300,034円 （34円は利子）